

# 伊予鉄取り組み

## 東大院生ら学ぶ

松山市駅前再開発など

地域交通を学ぶ東京大公共政策大学院の大学院生ら約20人が5日、松山市湊町4丁目の伊予鉄グループを訪れ、清水一郎社長から同社の取り組みを聞いた。

同大学院によると、授業の一環で実施。清水社長は、2018年4月の持ち株会社制移行時に、交通と観光、まちづくりを3本柱としたと述べ、サイクルトレイン運行など同社の観光振興策や市駅前の再開発計画などを紹介。「利用者の視点でスピード感を持ってやっていく」と述べたほか、20代で海外や地方を見ることで将来役立つとし、視野を広げて認識した日本の良さを発信すれば訪日外国人が定着するのではと提言した。

(丸岡裕美)



伊予鉄グループの取り組み

を紹介する清水一郎社長

(右上)115日午前、松山市

湊町4丁目